

令和3年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第四類（生涯活動教育系）造形芸術系コース〕

プログラムの名称（和文）	造形芸術教育プログラム
（英文）	Art Education Program
<p>1. 取得できる学位</p> <p>本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には本プログラムで実施される授業科目を履修する（選択を含む）ことによって修得する128単位を条件とする。128単位の内訳は教養教育科目40単位、専門基礎科目20単位、専門科目32単位、専門選択科目30単位、卒業研究6単位（卒業論文4単位を含む）である。</p>	
<p>2. 概要</p> <p>造形芸術教育プログラムでは、生涯教育における造形芸術の専門的指導者および中学校美術科教員、高等学校美術科教員を養成する。</p> <p>本プログラムは生涯教育機関および中学校、高等学校の造形芸術（美術）教育を実施する上において必要な、造形芸術教育学、絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学の教育とその内容に関する基礎的基本的な知識、能力、技能および態度を体系的に身につけ、生徒あるいは一般社会人の発達段階、学習段階、興味関心に応じた授業を展開したり、学習意欲を引き出し、発展的な学習を組織したりできる教育実践力を持った人材およびそれらを加味した上で自ら造形表現の活動を展開できる人材を育成することを目標にしている。</p> <p>本プログラムでは上にも記したとおり、中等教育の教員および企業や生涯教育機関において専門的指導者として活躍できる基礎的基本的知識、能力や技能の育成と同時に、関連分野の大学院に進学し研究者として活躍する人材養成にも十分配慮している。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>造形芸術教育プログラムでは、今日の社会的ニーズの多様化と増加をふまえ、生涯教育における造形芸術の指導者および中等造形芸術教員として必要な造形芸術についての総合的理解、理論的かつ実践的知識・技能・態度を修得し、さらには造形的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の目標を達成し、「知識・理解」「能力・技能」「総合的な力」それぞれについて学習成果をあげると共に、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。</p> <p>(1) 自ら優れた造形表現活動を展開するための技能を修得し、その活用ができる。</p> <p>(2) 造形芸術教育の教授内容に関連した基礎的・基本的な認識を形成し、その研究ができる。</p> <p>(3) 教科教育的思考を育成し、教育研究ができる。</p> <p>(4) 発達過程に即した造形芸術教育の専門的・発展的な認識を形成し、その実践ができる。</p> <p>また本プログラムにおける教養教育は、専門教育の基盤づくりを担うだけでなく、幅広い視野を与え、深化させる役割を持っています。今日の造形芸術が、その問題意識の面でも、いわゆる文系理系の枠を超えた総合科学的視野を要求していることに鑑み、人文科学、社会科学だけでなく、諸科学に関する基礎的基本的知識を修得すると共に、その理解力を養います。併せて外国語能力を向上させ、積極的な情報の収集・発信、コミュニケーション等の能力を培います。</p>	

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形芸術教育プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。

1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行うとともに社会及び造形芸術教育に貢献するための広い視野と能力を培います。また、専門基礎科目である「芸術教育学概論」、「絵画表現論」、「絵画表現実習基礎」、「彫刻表現実習基礎」、「デザイン表現実習基礎」、「造形芸術基礎論」等を履修し、造形芸術教育に関する基礎的な知識を修得します。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修して、専門教育の基盤づくりを行うとともに、「生涯活動教育論」、「美術科教育方法・評価論」、「彫刻表現論」、「デザイン概論」、「工芸表現論」、「工芸表現実習基礎」等の専門基礎科目を履修することで、造形芸術教育を学習していく上で必要な概括的かつ基礎的知識と技能を獲得し、分野間の理解を深めます。

3年次には、「芸術教育教材・構成論」、「芸術教育思想」、「美術科授業プランニング演習」等の専門科目を主として履修し、発達過程に即した造形芸術教育を実践するための必要な専門的知識を修得します。また、「卒業研究基礎演習Ⅰ」または「卒業研究基礎制作Ⅰ」を履修し、卒業研究のための基礎的な能力を高めます。

4年次には、造形芸術教育の発展的内容を学んで学習を深めます。また、卒業研究では、「卒業研究基礎演習Ⅱ」または「卒業研究基礎制作Ⅱ」における学習をふまえ、論文作成・作品制作を行います。そこでは、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組むことで、自ら問題を発見して解決する力を培います。

学修の成果は、各科目の成績評価と共に、本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

プログラム開始（選択）時期は、1年次（入学時）である。

6. 取得可能な資格

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、卒業時に中学校教諭一種免許（美術）と高等学校教諭一種免許（美術）を得られる。また、特定プログラムを追加して修得すると、卒業時に博物館学芸員となる資格、学校図書館司書教諭などの資格が得られる。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀 : 90点以上)	4
A (優 : 80～89点)	3
B (良 : 70～79点)	2
C (可 : 60～69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀 (Excellent)	3.00～4.00
優秀 (Very Good)	2.00～2.99
良好 (Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

(1) プログラムによる学習の成果

本プログラムにおける学習の成果として、具体的に身に付く知識や理解、能力、技能を以下のように定めている。

○知識・理解

- 1) 生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、知識や理解をもとに説明することができる。
- 2) 造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学）について、知識や理解をもとに説明することができる。
- 3) 造形芸術教育の理論と方法について、知識や理解をもとに説明することができる。
- 4) 各学問領域について、その形成過程と発展過程及び現代的な課題について説明することができる。

○能力・技能

- 1) 造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。
- 2) 造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。
- 3) 造形芸術教育の研究課題（表現を含む）を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。
- 4) 造形芸術教育の内容（絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学）に関する技能を修得し、その特質に応じた表現ができる。
- 5) 造形芸術教育の授業・指導やカリキュラムを構想・立案し、学習指導案や計画としてまとめることができる。
- 6) 造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的に発表（プレゼンテーション）することができる。
- 7) 情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や受発信を適切に行うことができる。
- 8) 複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解することができる。
- 9) 多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べることができる。
- 10) スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、体力・健康づくりの必要性を科学的に説明することができる。
- 11) 大学で学ぶ上で必要となる基本的技能を修得するとともに、倫理規範について理解し、説明することができる。

○総合的な力

- 1) 造形芸術教育の内容（絵画，彫刻，デザイン，工芸，造形芸術学）固有の課題を理解し，より発展的な表現へと進化させることができる。
- 2) 造形芸術教育の教員や指導者として，学習者の課題（技術的課題を含む）を発見し，整理して指摘することができる。
- 3) 知識と情報を駆使して造形芸術教育の今日的課題を発見し，これを研究・探求するとともに，効果的な媒体で表現することができる。
- 4) 複数の学問領域にまたがる歴史的，現代的課題について，多角的な視点から説明することができる。

(2) 教育方法・学習方法

※別紙1を参照すること。

(3) 学習支援体制

- ・担当教員会において意見交換の場が設けられている。
- ・チューター，指導教員，授業担当教員による指導体制が整っている。

(4) 到達度チェックの仕組み

(個人成績)

- 1) 授業科目ごとの成績は，秀，優，良，可及び不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は所定の計算法により，GPAとして累積する。
- 3) 学年ごとにGPAを算出し，個人の基本成績レベルが確認できるようにする。
- 4) 各学年で評価項目ごとに到達度を判定し，個々の達成水準を明示する。

(成績評価)

- 1) 1年次，2年次，3年次には，取得単位数と成績到達水準により，次年次への進級が判断される。
- 2) 未到達者には問題点と課題が提示され，求められる水準に達したときに，次年次に進級できる。
- 3) 4年次では，それまでの成績，卒業要件取得単位数，評価項目ごとの到達度に加味して，卒業論文の成績により，本プログラムでも総合的な成績評価が提示される。

(5) 成績が示す意味

※別紙2（評価項目と評価基準との関係）を参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属方法，時期等）

(1) 目的

卒業論文は本プログラムが主として目指す，生涯活動における造形芸術の専門的指導者および中等造形芸術教員養成の到達点であり，学年進行とともに身につける知識，技能，開発される能力を総合化し，自らの到達水準を見極めることを目的とする。もちろんそれは終着点ではなく，その後の発展，深化を促すためのものでもある。

(2) 概要

学生は，造形芸術教育学，絵画，彫刻，デザイン，工芸，造形芸術学から1領域を選択する。「卒業研究基礎演習 I・II」（造形芸術教育学，造形芸術学）または「卒業研究基礎制作 I・II」（絵画，彫刻，デザイン，工芸）を順次履修しながら論文指導教員の指導のもと，各自が選択するテーマに即して研究を

進め，4年次10月の所定期日に研究テーマを，1月末に卒業論文を提出する。

なお、絵画、彫刻、デザイン、工芸の各分野においては作品制作を論文に含める。

(3) 配属時期と配属方法

3年次前期（5セメスター）末に学生の希望、学習状況、設備の条件などを勘案して卒業論文指導教員を決定し、主たる研究分野を選択する。3年次後期以降、「卒業研究基礎演習 I・II」「卒業研究基礎制作 I・II」をはじめ、必要な授業科目のほか、主たる研究分野の授業科目を中心に履修をすすめ、4年次に卒業論文を作成する。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)）

本プログラムは主として教育学部の造形芸術系コースを担当するスタッフによって遂行される。遂行上の責任はプログラム責任者（造形芸術系コース主任）にある。計画・実施・評価検討・対処は本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は教育学部内の担当部会によって進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

(2) プログラムの評価

○プログラム評価の観点

本プログラムでは教育的効果と社会的効果を評価の観点とする。教育的効果ではプログラムの実施自体における学生の学習効果を判定し、社会的効果ではプログラムの学習結果の社会的有効性を判定する。

○評価の実施方法

本プログラムは上記の観点に従い、原則として入学して4年を経た年次にプログラム自体の成果を評価する。

教育的効果に関しては本プログラムを学習した学生の到達率（卒業要件の充足と、希望者の中等造形芸術系教員資格の充足）による評価、および実施した教員グループによる総合的な評価によって行われる。単位充足率とともに、教員の総合評価に基づいて本プログラムの到達水準まで学生が達したかどうか、学生全体でどのような割合で達したのかを調べ、70%以上の達成率があるかどうかを点検する。

社会的効果に関しては、学生の教員採用試験の合格率による評価、採用後の造形芸術系教員としての成長度による評価、造形芸術教育の指導者としての実績評価として実施される。本プログラムを学習した学生が教員を目指した場合、いつ、どの時点で正教員になったのか、またどのような教員として学校および教育委員会において評価されているのかを、可能な範囲で数年おきに調べ、教員としての成長度合いを総合的に評価する。また、造形芸術教育の指導者を目指した場合、専門的職への採用状況や、公募展での受賞状況などが総合的な評価に評価される。

○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果はプログラム担当教員会において、プログラムの見直し、改善とともに、学生指導、各授業科目の効果を検討し、検討結果を下学年のプログラム運営・実施に反映させる。

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第四類 造形芸術系コース（造形芸術教育プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)														
						1年次		2年次		3年次		4年次								
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ							
教養教育科目	平和科目	2		2	選択必修	○														
	大学教育基礎科目																			
	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○														
	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○														
	領域科目	人文社会科学系科目群	4	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○										
		自然科学系科目群	4	(注5)	1又は2	選択必修	○	○	○	○										
	外国語科目	英語	(0)	コミュニケーション基礎 I	1	自由選択	○													
				コミュニケーション基礎 II	1			○												
		(注2)	4	4	コミュニケーション I A	1	選択必修	○												
					コミュニケーション I B	1		○												
					コミュニケーション II A	1			○											
					コミュニケーション II B	1			○											
		-	(0)	(0)	上記4科目から2科目以上		自由選択	○	○											
		初修外国語	4	4	ベーシック外国語 I (注6)	1	選択必修	○												
					ベーシック外国語 II (注6)	1		○												
					ベーシック外国語 III (注6)	1			○											
	ベーシック外国語 IV (注6)				1			○												
	(0)				(0)	(0)	インテンシブ外国語 I	1	自由選択	○										
	(0)	(0)	(0)	インテンシブ外国語 II	1	自由選択		○												
	(0)	(0)	(0)	海外語学演習	1	自由選択														
情報・データサイエンス科目	4	4	情報・データ科学入門	2	必修	○														
			(注7)	2	選択必修	○	○													
健康スポーツ科目	2	2		1又は2	選択必修	○	○													
社会連携科目	(0)	(0)		1又は2																
基盤科目	(0)	(0)		1又は2																
自由選択科目	12	12	(注8)	1～3	選択必修	○	○	○	○											
計	40	40																		

注1： ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2： 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習 I・II・III」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3： 時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」が、2セメスターは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」が指定されている。

注4： 教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

注5： 「情報・データサイエンス科目」のうち4単位を超えて修得した単位数は、卒業に必要な領域科目（自然科学系科目群）の単位に代えることができる。

注6： ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択とする。

注7： 「コンピュータ・プログラミング」、「知能とコンピュータ」、「データサイエンス基礎」、「ゼロからはじめるプログラミング」、「教育のためのデータサイエンス」を対象とする。

注8： 領域科目、外国語科目、情報・データサイエンス科目、社会連携科目、基盤科目を対象とする。

学部履修基準

第四類（生涯活動教育系）

○ 造形芸術系コース（造形芸術教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数	
教 養 教 育	平和科目		2	
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	
		教養ゼミ	2	
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群	4
			自然科学系科目群	4
		外国語科目	英語	4
			初修外国語	4
		情報・データサイエンス科目	4	
		健康スポーツ科目	2	
		社会連携科目	(0)	
基盤科目		(0)		
自由選択科目		12		
専 門 教 育	専門基礎科目		20	
	専門科目		32	
	専門選択科目		30	
	卒業研究		6	
合 計			128	

専門教育科目履修基準

<履修上の注意>

- 『卒業研究』の6単位は、「卒業研究基礎演習Ⅰ・Ⅱ」又は「卒業研究基礎制作Ⅰ・Ⅱ」の2単位と「卒業論文」4単位を充てること。
- 『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、30単位まで認める。

第四類 造形芸術系コース（造形芸術教育プログラム）

開設単位数欄の○印数字は必修
履修 Semester 欄の○印は標準履修 Semester

区分	授業科目	開 単 位 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 基 礎 科 目	生涯活動教育論	②				○							類共通科目
	芸術教育学概論	②		○								教科の指導法（美術）	
	美術科教育方法・評価論	②				○						〃	
	絵画表現論	②		○								絵 画	
	絵画表現実習基礎	①	○									〃	
	彫刻表現論	②			○							彫 刻	
	彫刻表現実習基礎	①	○									〃	
	デザイン概論	②			○							デザイン	
	デザイン表現実習基礎	①	○									〃	
	工芸表現論	②				○						工 芸	
	工芸表現実習基礎	①			○							〃	
造形芸術基礎論	②		○								美術理論及び美術史		
専 門 科 目	美術科教育学概論	2			○						教科の指導法（美術）		
	芸術教育教材・構成論	2						○			〃		
	美術科教育指導者論	2							○		〃		
	芸術教育支援論	2			○						〃		
	芸術教育思想	2					○				〃		
	美術科授業プランニング基礎	2				○					〃		
	美術科授業プランニング演習	2					○				〃		
	絵画表現研究	2							○		絵 画		
	絵画表現演習	2			○						〃		
	絵画表現実習Ⅰ	1				○					〃		
	絵画表現実習Ⅱ	1					○				〃		
	彫刻表現演習	2				○					彫 刻		
	彫刻表現総合演習	2						○			〃		
	彫刻教育素材実習	1		○							〃		
	彫刻表現実習	1					○				〃		
	平面デザイン教育演習	2							○		デザイン		
	立体デザイン教育演習	2		○							〃		
	色彩学演習	2				○					〃		
	CG基礎演習	2						○			〃		
	工芸教育素材研究Ⅰ	2					○				工 芸		
工芸教育素材研究Ⅱ	2						○			〃			
工芸表現演習	2							○		〃			
日本美術史概説	2			○						美術理論・美術史			
西洋美術史概説	2					○				〃			
造形芸術学演習	2							○		〃			
学外研修	2			○							隔年開講		

区分	授業科目	開 単 位 設 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 選 択 科 目	教職入門	2			○							教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	
	教育の思想と原理	2			○							教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
	児童・青年期発達論	2					○					幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
	教育と社会・制度	2				○						教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	
	教育課程論	2					○					教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	
	道徳教育指導法	2					○					道徳の理論及び指導法	
	特別活動指導法	2				○						特別活動の指導法	
	教育方法・技術論	2				○						教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	
	生徒・進路指導論	2				○						生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	
	教育相談	2						○				教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	
	総合的な学習の時間の指導法	1						○				総合的な学習の時間の指導法	
	特別支援教育	1					○					特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	
	中・高等学校教育実習入門	2	○									教育実習(事前指導)	
	中・高等学校教育実習観察	1				○						教育実習(事前指導)	
	教育実習指導B	1					○					教育実習(事前指導)	
	中・高等学校教育実習I	4						○				教育実習(中学校本免用)	
	中・高等学校教育実習II	2							○			教育実習(高等学校本免用)	
	教職実践演習(中・高)	2								○		教職実践演習	
	介護等体験事前指導	1			○							大学が独自に設定する科目	
本コース, 本学部他コース, 特別科目及び他学部等が開設する専門教育科目(副専攻プログラム及び特定プログラムを含む。)													

区分	授業科目	開 単 位 設 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
卒 業 研 究	卒業研究基礎演習Ⅰ	1						○					
	卒業研究基礎演習Ⅱ	1							○				
	卒業研究基礎制作Ⅰ	1						○					
	卒業研究基礎制作Ⅱ	1							○				
	卒業論文	④											

造形芸術教育プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、知識や理解をもとに説明することができる。	生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、基礎的・基本的な事項を教育全体や社会との関わり視点から正確かつ深い理解をもとに説明することができる。	生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、基礎的・基本的な事項を教育全体や社会との関わり視点から概ね理解し、説明することができる。	生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、基礎的・基本的な事項を説明することができる。
	(2) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)について、知識や理解をもとに説明することができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)の表現と鑑賞について、正確かつ深い知識や理解をもとに説明することができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)の表現と鑑賞について、十分な知識や理解をもとに概ね説明することができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)の表現と鑑賞について、基礎的・基本的な知識や理解をもとに説明することができる。
	(3) 造形芸術教育の理論と方法について、知識や理解をもとに説明することができる。	造形芸術教育の理論と方法について、正確かつ深い知識や理解をもとに説明することができる。	造形芸術教育の理論と方法について、十分な知識や理解をもとに概ね説明することができる。	造形芸術教育の理論と方法について、基礎的・基本的な知識や理解をもとに説明することができる。
	(4) 各学問領域について、その形成過程と発展過程及び現代的な課題について説明することができる。	各学問領域について、その形成過程と発展過程及び現代的な課題について、正確かつ深い知識や理解をもとに説明することができる。	各学問領域について、その形成過程と発展過程及び現代的な課題について、十分な知識や理解をもとに概ね説明することができる。	各学問領域について、その形成過程と発展過程及び現代的な課題について、基礎的・基本的な知識や理解をもとに説明することができる。
能力・技能	(1) 造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。	造形芸術教育の資料・情報を的確・適切に収集・整理し、批判的・総合的に読解することができる。	造形芸術教育の資料・情報を的確に収集し、適切に整理して読解することができる。	造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。
	(2) 造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。	造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。	造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、十分に分析・検討することができる。	造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、分析・検討することができる。
	(3) 造形芸術教育の研究課題(表現を含む)を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。	造形芸術教育の研究課題(表現を含む)を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。	造形芸術教育の研究課題(表現を含む)を発見し、整理してまとめることができる。	造形芸術教育の研究課題(表現を含む)を発見することができる。
	(4) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)に関する技能を修得し、その特質に応じた表現ができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)に関する高度な技能を修得し、その特質を生かした自由な表現ができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)に関する基礎技能を十分に修得し、特質を生かした表現ができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)に関する基礎技能を修得したり、特質に応じた簡単な表現ができたりする。
	(5) 造形芸術教育の授業・指導やカリキュラムを構想・立案し、学習指導案や計画としてまとめることができる。	造形芸術教育の授業・指導を十分に吟味して構想・立案し、根拠に基づいた確かな学習指導案や計画としてまとめることができる。	造形芸術教育の授業を構想・立案し、整理された学習指導案や計画としてまとめることができる。	造形芸術教育の授業を構想・立案し、学習指導案や計画としてまとめることができる。
	(6) 造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的に発表(プレゼンテーション)することができる。	造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的、印象的に発表(プレゼンテーション)し、伝えることができる。	造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して発表(プレゼンテーション)し、正確に伝えることができる。	造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して発表(プレゼンテーション)することができる。
	(7) 情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を適切に行うことができる。	情報に関する高度な知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を的確・適切に行うことができる。	情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を適切に行うことができる。	情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を行うことができる。
	(8) 複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解することができる。	複数の外国語を高度に活用することで、多くの言語や文化を総合的に理解することができる。	複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を十分に理解することができる。	複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解することができる。
	(9) 多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べるができる。	多角的な視点から平和について深く考え、自分の意見を的確・適切に述べることができる。	多角的な視点から平和について考え、自分の意見を適切に述べるができる。	多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べるができる。
	(10) スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、体力・健康づくりの必要性を科学的に説明することができる。	スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を総合的に理解し、体力・健康づくりの必要性を科学的に説明することができる。	スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、体力・健康づくりの必要性を説明することができる。	スポーツの実践を通じて、スポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、体力・健康づくりの必要性を説明することができる。
	(11) 大学で学ぶ上で必要となる基本的技能を修得するとともに、倫理規範について理解し、説明することができる。	大学で学ぶ上で必要となる基本的技能を修得するとともに、倫理規範についての深い理解をもとに、的確・適切に説明することができる。	大学で学ぶ上で必要となる基本的技能を修得するとともに、倫理規範について理解し、適切に説明することができる。	大学で学ぶ上で必要となる基本的技能を修得するとともに、倫理規範について理解し、説明することができる。
総合的な力	(1) 造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)固有の課題を理解し、より発展的な表現へと進化させることができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)固有の課題を理解し、より自由で発展的、創造的な表現を実現することができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)固有の課題を理解し、発展的な表現を実現することができる。	造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)固有の課題を理解し、発展的な表現を試みることができる。
	(2) 造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見し、整理して指摘することができる。	造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見し、整理して指摘するとともに、課題解決の方策を示すことができる。	造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見し、整理して指摘することができる。	造形芸術教育の教員や指導者として、学習者の課題(技術的課題を含む)を発見することができる。
	(3) 知識と情報を駆使して造形芸術教育の今日的課題を発見し、これを研究・探求するとともに、効果的な媒体で表現することができる。	社会とのつながりを意識しながら、さまざまな知識と情報を駆使して造形芸術教育の今日的課題を発見し、研究・探求し、効果的な媒体で表現することができる。	さまざまな知識と情報をもとに造形芸術教育の今日的課題を発見し、研究・探求し、効果的な媒体で表現することができる。	知識と情報をもとに造形芸術教育の今日的課題を発見し、研究・探求し、表現することができる。
	(4) 複数の学問領域にまたがる歴史的、現代的課題について、多角的な視点から説明することができる。	複数の学問領域にまたがる歴史的、現代的課題について、多角的な視点から批判的・総合的に説明することができる。	複数の学問領域にまたがる歴史的、現代的課題について、多角的な視点から適切に説明することができる。	複数の学問領域にまたがる歴史的、現代的課題について、多角的な視点から説明することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は専門教育の基盤づくりを担います。今日の造形芸術が、その問題意識の面でも、いわゆる文系理系の枠を超えた総合科学的視野を要求していることに鑑み、人文科学、社会科学だけでなく、諸科学に関する基礎的・基本的知識・理解を修得します。あわせて外国語能力を向上させ、積極的な情報の収集・発信、コミュニケーション等の能力を養います。

造形芸術教育プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	(1)生涯活動教育や中等教育における造形芸術教育の位置や意味について、知識や理解をもとに説明することができる。		(4T)芸術教育学概論(◎)	(集中)学外研修(△)	(4T)生涯活動教育論(◎)	(1T)芸術教育思想(△)			
	(2)造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)について、知識や理解をもとに説明することができる。	(1T)彫刻表現実習基礎(◎)	(3T)絵画表現論(◎)	(2T)彫刻表現論(◎)	(3T)工芸表現論(◎)	(2T)工芸教育素材研究Ⅰ(△)	(4T)彫刻表現総合演習(△)	(1T)平面デザイン教育演習(△)	
	(3)造形芸術教育の理論と方法について、知識や理解をもとに説明することができる。			(2T)デザイン概論(◎)	(3T)絵画表現実習Ⅰ(△)	(1T)西洋美術史概説(△)	(4T)工芸教育素材研究Ⅱ(△)		
	(4)各学問領域について、その形成過程と発展過程及び現代的な課題について説明することができる。			(3T)彫刻教育素材実習(△)	(2T)日本美術史概説(△)	(4T)色彩学演習(△)	(3T)CG基礎演習(△)		
能力・技能	(1)造形芸術教育の資料・情報を収集し、整理して読解することができる。	(1T)教養ゼミ(◎)	(4T)造形芸術基礎論(◎)	(2T)彫刻表現論(◎)		(1T)西洋美術史概説(△)		(2T)美術科教育指導者論(△)	
	(2)造形芸術教育のカリキュラムや授業、教育課題に関して、批判的に分析・検討することができる。			(2T)日本美術史概説(△)					
	(3)造形芸術教育の研究課題(表現を含む)を発見し、批判的に分析・検討してまとめることができる。	(1T)教養ゼミ(◎)		(1T)美術科教育学概論(△)	(3T)工芸表現論(◎)	(2T)絵画表現実習Ⅱ(△)	卒業研究基礎演習Ⅰ(○)	卒業研究基礎演習Ⅱ(○)	(4T)造形芸術学演習(△)
	(4)造形芸術教育の内容(絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学)に関する技能を修得し、その特質に応じた表現ができる。	(2T)絵画表現実習基礎(◎)	(3T)彫刻教育素材実習(△)	(2T)デザイン概論(◎)	(3T)工芸表現論(◎)	(2T)絵画表現実習Ⅱ(△)	卒業研究基礎演習Ⅰ(○)	卒業研究基礎演習Ⅱ(○)	(4T)造形芸術学演習(△)
	(5)造形芸術教育の授業・指導やカリキュラムを構想・立案し、学習指導案や計画としてまとめることができる。	(1T)彫刻表現実習基礎(◎)	(3T)立体デザイン教育演習(△)	(1T)工芸表現実習基礎(◎)	(3T)絵画表現実習Ⅰ(△)	(2T)絵画表現実習Ⅱ(△)	(4T)彫刻表現総合演習(△)	(1T)平面デザイン教育演習(△)	
	(6)造形芸術教育の学習成果をさまざまな機器や素材などを活用して、効果的に発表(プレゼンテーション)することができる。	(1T)デザイン表現実習基礎(◎)		(2T)芸術教育支援論(△)	(4T)彫刻表現演習(△)	(2T)工芸教育素材研究Ⅰ(△)	(4T)工芸教育素材研究Ⅱ(△)		
	(7)情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や受発信を適切に行うことができる。	(1T)デザイン表現実習基礎(◎)			(4T)色彩学演習(△)	(2T)彫刻表現実習(△)	(3T)CG基礎演習(△)		
	(8)複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解することができる。	情報・データサイエンス科目(○)			(1T)美術科授業プランニング演習(△)	(3T)芸術教育教材・構成論(△)			
	(9)多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べるることができる。	外国語科目(○)	外国語科目(○)						
	(10)スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、体力・健康づくりの必要性を科学的に説明することができる。	平和科目(○)							
	(11)大学で学ぶ上で必要となる基本的技能を修得するとともに、倫理規範について理解し、説明することができる。	健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)						

造形芸術教育プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
井戸川 豊	教授	7142	E-108	idogawa@
内田 雅三	教授	7144	E-204	muchida@
多田羅 多起子	准教授	7139	E-105	tataratakiko@
一鍬田 徹	教授	7141	E-107	thitoku@
蜂谷 昌之	准教授	7143	E-203	mhachiya@
三根 和浪	准教授	7145	E-303	kmine@
八木 健太郎	准教授	7147	E-306	yagik@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））